
十日町市教育委員会 文化財課 年報 14

平成23年度（2011.4～2012.3）

十日町市教育委員会 文化財課

例　　言

1. 本書は、十日町市教育委員会文化財課の平成23年度を中心とした活動記録である。
2. 本書の構成は文化財課の業務を大まかに I. 運営、II. 指定文化財、III. 埋蔵文化財、IV. その他の4つに分類した。
3. 本書の原稿は、文化財課職員がそれぞれ担当を決めて分担執筆し、末尾に担当者名を記した。
4. 提出された原稿は、できるだけ原文を尊重した。ただし、用字・用語、内容、表記など執筆者の了解をえて編集者が修正した箇所がある。
5. 本書の編集は石原正敏が担当し、石原俊、角山誠一、鈴木えみ、樋口信一の協力を得た。
6. 文化財の調査・保護活動から本書作成までに、教育委員、文化財保護審議会委員、指定文化財の所有者・管理者の各位をはじめ下記の個人、団体、機関などからご支援・ご協力をいただいた。記して御礼申し上げる次第である。

(順不同・敬称略)

小川 和男　　河崎 政治　　小林 正和　　佐藤実千代　　田川 欣五　　羽鳥 クニ
村山 和子　　村山 宗一
N P O 笹山縄文の里　　(有)アルケーリサーチ　　(株)大村建設　　(株)茅葺屋根保存協会
(社)十日町地域シルバー人材センター　　(株)清水建設　　(株)拓越　　(株)十日町測量　　(有)羽鳥建築
(有)ペンタラボ　　(有)星野建設　　十日町市博物館友の会　　十日町市農林課　　津南町森林組合
新潟県十日町地域振興局　　新潟県教育庁文化行政課　　文化財建造物保存技術協会　　文化庁

目　　次

I. 運営	
1. 文化財保護行政の現状と課題	1
2. 文化財保護審議会の経過	2
3. 予算と決算	3
II. 指定文化財	
1. 新指定の文化財	4
2. 国・県・市指定文化財の保存と管理	6
3. 火焰の都整備事業	8
III. 埋蔵文化財	
1. 発掘調査	10
2. 保存目的の確認調査	12
3. 笹山遺跡学術調査（発掘）事業	14
4. 埋蔵文化財調査報告書作成事業	16
IV. その他	
1. 博物館教育普及事業	17
2. 文化財資料の保存と活用	18

I. 運 営

1. 文化財保護行政の現状と課題

文化財課は、「地域文化の向上に資するため、文化財の調査、研究、保存、管理の充実をはかること」を課の方針とし、① 笹山遺跡の史跡公園化促進、② 指定文化財の保護・管理、③ 埋蔵文化財調査と出土資料等の整理及びデータ蓄積、④ 埋蔵文化財等の調査報告書作成と刊行を重点事業としている。

平成23年度は職員8名、嘱託職員1名、臨時職員・補助員9名の体制で、(1)文化財保護調査事業、(2)遺跡発掘調査事業、(3)埋蔵文化財等調査報告書作成事業、(4)火薬の都整備事業、(5)資料館等維持管理事業などに取り組んだ。各事業の進捗状況は別記の通りであるが、現状と課題についてふれる。

文化財保護調査事業では、新指定の市指定文化財は4月に「旧室岡家住宅（十日町市まつだい郷土資料館）」（建造物）、「群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双」（絵画）、「重地の大池」（天然記念物）の3件、平成24年3月に「太田島小牧社の大ケヤキ」（天然記念物）、「干溝遺跡出土隆起線文土器」（考古資料）の2件の指定により、計5件となった（4～5頁）。

一方で、自然災害による指定文化財の被害が相次いだ1年でもあった。豪雪のため、平成23年1月に県指定文化財の「神宮寺観音堂・山門」の茅が一部抜け落ちる事故が発生した。その後、7月29日に発生した新潟・福島豪雨災害により、県指定文化財の「中尾の大杉」が倒木するという痛ましい被害があった（6～7頁）。豪雨では市指定文化財の「積翠荘」や国重要文化財の「松亭神社」の山道にも大きな被害があった。「神宮寺観音堂・山門」は、平成24年2月にも豪雪のため観音堂の茅が一部抜け落ちた。権限移譲に伴い、平成24年4月から県指定文化財に滅失・き損などのおそれがある場合の勧告を市が行うことになる予定である。雪消えを待って、県と密接に連携をとりながら迅速に対応しなければならないと考えている。

遺跡発掘調査事業では、干溝東遺跡・小原遺跡（国道353号バイパス建設事業）、白羽毛遺跡（県営中山間地域総合整備事業）、下原田A遺跡・下原田B遺跡（市営土地改良事業）、貝野沢田遺跡（県道改良事業）、などの本調査のほか、11件の試掘・確認調査を実施した（10～11頁）。保存目的の田沢遺跡の範囲確認調査は3年目が終了した（12～13頁）。

埋蔵文化財等調査報告書事業では、『野首遺跡発掘調査報告書』の第2分冊となる遺物編1の編集作業を行っている（16頁）。一方で、国道353号バイパス建設事業に伴って、平成20～21年度に本調査を実施した上屋敷遺跡・溝遺跡の調査報告書作成事業も進行中であり、今後、樽沢開田遺跡、清津宮峯遺跡などの調査報告書作成事業も始まる予定である。昭和後半から平成前半にかけて圃場整備など諸開発に伴って発掘調査した市内の遺跡数は膨大な数にのぼる。報告書未刊行問題に対処するためには、業務の外部委託を含め、国・県の指導を受けながら、抜本的な報告書刊行計画の見直しが必要と考えている。

火薬の都整備事業では、笹山スポーツハウスをスポーツ振興課から移管し、笹山縄文館として管理するとともに、整備を進めている。笹山史跡公園内に竪穴式住居が年度内にもう1棟完成する見込みである（8頁）。市史跡指定地の用地交渉を進める一方で、今年度から5ヶ年計画で学術調査の取組みを行っている（14～15頁）。

資料館等維持管理事業では、川西文化財資料収蔵庫、新設した高倉文化財資料収蔵庫、中里文化財資料収蔵庫、松之山郷民俗資料館などの維持管理を行った。中里文化財資料収蔵庫において、屋根修繕及び立木伐採などを行った。なお、平成24年度に大規模な屋根修繕工事を実施する予定である。

以上のように、合併後7年が経過し、当市の文化財保護行政の課題は山積しているが、一步一歩着実に取り組んでいきたい。(平野 勝)

2. 文化財保護審議会の経過

◆第1回 4月20日(水) 13時30分～15時30分

《出席者》武田正史、宮澤孝美、井上信夫、川村知行、星名 寅、鈴木榮太郎、佐藤喜一、村山詔平の各委員。庭野政義、丸山克巳委員欠席。事務局：平野、水落、石原。

《内容》委員の互選により武田会長が再任。会長の指名により職務代理は鈴木委員。22年度文化財課事業報告、23年度文化財課事業計画について報告。東日本大震災の発生により年度をまたぐ形となった「旧室岡家住宅（十日町市まつだい郷土資料館）」「群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双」「重地の大池」の3件について市指定文化財の指定答申。

◆第2回 6月29日(水) 13時30分～15時30分

《出席者》武田正史、庭野政義、宮澤孝美、丸山克巳、井上信夫、星名 寅、佐藤喜一、村山詔平の各委員。鈴木榮太郎、川村知行委員欠席。事務局：平野、水落、石原。

《内容》「群馬図屏風」の市文化財指定記念展の開催（5月13～15日、松之山自然休養村センター）、埋蔵文化財発掘調査状況と今後の予定、笛山遺跡学術調査などについて報告。平成23年度の候補物件について審議。

◆第3回 10月14日(金) 13時～17時

《出席者》武田正史、宮澤孝美、井上信夫、星名 寅、鈴木榮太郎、佐藤喜一、村山詔平の各委員。庭野政義、丸山克巳、川村知行委員欠席。事務局：平野、水落、石原。

《内容》豪雨等に伴う文化財被害状況、前半期の事業の進捗状況と今後の予定などについて報告。2台の車に分乗して、「積翠荘」の被害状況観察。その後、「鶴沼池」（名ヶ山）、「太田島小牧社の大ケヤキ」、「縄文草創期遺跡群」（干溝）、「瀬戸口渓谷坊主岩」（西田尻）など候補物件の現地調査。

◇十日町市・津南町合同文化財研修会 11月24日(水) 10時～13時

会場 千手中央コミュニティセンター

内容 (1)現地見学 国重要文化財・星名家住宅

(2)講演 「名勝・天然記念物の保存と活用」十日町市文化財保護審議会委員 井上信夫

(3)意見交換 「文化財の保存と活用」

参加者：十日町市 委員8名、事務局3名 津南町 委員5名、事務局4名

◆第4回 12月22日(木) 15時～17時

《出席者》武田正史、庭野政義、宮澤孝美、丸山克巳、鈴木榮太郎、佐藤喜一、村山詔平の各委員。井上信夫、川村知行、星名 寅委員欠席。事務局：平野、水落、石原。

《内容》23年度文化財課事業報告、24年度文化財課事業計画について報告。市指定文化財の指定について、「太田島小牧社の大ケヤキ」「干溝遺跡出土隆起線文土器」の2件を諮問。

◆第5回 2月28日(火) 13時30分～15時30分

《出席者》武田正史、宮澤孝美、丸山克巳、井上信夫、鈴木榮太郎、星名 寅、佐藤喜一、村山詔平の各委員。庭野政義、川村知行委員欠席。事務局：平野、水落、石原。

《内容》23年度文化財課事業報告、24年度文化財課事業計画、節黒城跡展望台の改築計画、星名家住宅保存修理工事報告書の刊行、県からの権限移譲などについて報告。「太田島小牧社の大ケヤキ」、「干溝遺跡出土隆起線文土器」の2件について指定答申。(石原 正敏)

3. 予算と決算

平成23年度の予算は、当初予算が昨年に比べ53%プラスの85,709千円となった。しかし、6月補正で3,972千円の増、9月補正で遺跡調査発掘事業費が22,020千円の増、12月補正で2,120千円の減、1月専決及び3月補正等で2,350千円の減となり、補正後予算額は107,231千円となっている。

予算内容は大別すると(1)一般経費（3,023千円）、(2)文化財保護調査費（3,194千円）、(3)埋蔵文化財関係経費（55,249千円）、(4)火焔の都整備事業関係経費（39,975千円）、(5)資料館関係経費（5,790千円）からなる。このうち、(3)埋蔵文化財関係経費の小原遺跡分5,710千円、(4)火焔の都整備事業関係経費の土地購入費及び立木補償料の計13,500千円が平成24年度に明許繰越される予定である。

(1)は文化財保護審議会関係経費、嘱託職員報酬などであり、(2)は文化財指定に係る調査、指定文化財管理手数料、補助金、(3)は遺跡発掘調査・遺物整理事業費、埋蔵文化財等調査報告書作成事業費、(4)は火焔の都整備に向けた土地購入、公園整備・修繕工事及び関連ソフト事業費、笹山遺跡学術調査事業費、(5)は資料館等の管理、車両関係経費などである。
 (矢口 ヨネ子)

☆平成23年度通常予算

歳入予算（決算見込）

（単位：千円）

※3月26日現在

款項目					
節	説明		当初予算額	補正額	補正後予算額
13款 使用料及び手数料	1項 使用料	7目 教育使用料			
6. 民俗資料館入館料	20. 松之山民俗資料館入館料		100	0	100
14款 国庫支出金	2項 国庫補助金	5目 教育費国庫補助金			
4. 社会教育費補助金	25. 遺跡調査遺物整理補助金		1,500	△ 900	600
15款 県支出金	2項 県補助金	1目 総務費県補助金			
1. 合併特別交付金	05. 新潟県合併特別交付金		7,500	0	7,500
15款 県支出金	2項 県補助金	4目 農林水産業費県補助金			
3. 土地改良事業費県補助金	30. 県単農業農村整備事業補助金		3,200	0	3,200
15款 県支出金	2項 県補助金	8目 教育費県補助金			
1. 文化財費県補助金	20. 遺跡調査遺物整理補助金		375	△ 300	75
15款 県支出金	3項 委託金	5目 教育費委託金			
2. 埋蔵文化財調査委託金	5. 埋蔵文化財調査委託金		7,960	24,040	32,000
	15. 県當中山間地域総合整備事業 遺跡発掘調査委託金		11,400	△ 2,850	8,550
					8,550

歳出予算（決算見込）

（単位：千円、千円未満切り上げ）

※3月26日現在

節	説明	当初予算額	補正額	補正後予算額	決算見込額
1. 報酬	文化財保護審議会委員・文化財調査研究員	2,935	0	2,935	2,869
2. 給料	一般職	200	0	200	200
7. 賃金	発掘調査遺物整理作業員・調査整理補助員 中里文化財資料収蔵庫維持管理作業員 文化財保護作業員ほか	5,950	1,434	7,384	5,959
8. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼ほか	756	△ 111	645	586
9. 旅費	費用弁償・普通旅費	373	0	373	330
11. 需用費	消耗品費・燃料費・印刷製本費 修繕料・光熱水費	3,565	2,022	5,587	4,852
12. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料	1,520	△ 86	1,434	1,340
13. 委託料	遺跡発掘作業・遺物整理作業 遺跡調査管理支援・地形等測量 遺物実測作業・土器復元作業 火焔の都設計管理等委託・測量調査 施設等管理・除雪委託	48,909	17,531	66,440	60,922
14. 使用料ほか	借地料・発掘用重機賃貸料ほか	455	329	784	681
15. 工事請負費	公園整備修繕工事	5,000	33	5,033	5,033
16. 原材料費	遺構保存用原材料	10	△ 10	0	0
17. 公有財産購入費	土地購入費	11,000	△ 500	10,500	0
19. 負担金ほか	指定文化財保存修理事業費補助金 文化財保存修理補助金 文化財保存事業費補助金 信濃川火焔街道連携協議会負担金	2,013	880	2,893	2,120
22. 補償金ほか	立木補償料	3,000	0	3,000	0
27. 公課費	自動車重量税	23	0	23	23
合計		85,709	21,522	107,231	84,915

II. 指定文化財

1. 新指定の文化財

平成18年度に十日町市文化財保護審議会より「市指定文化財の見直し」の答申がなされたことを受け、平成19年度から実際の見直し作業が始まり、平成20年度に完了した。その後、平成21年度に3件、平成23年度に5件の新たな文化財指定がされた（第3～4表）。これは、東日本大震災の発生により平成22年度の3件が年度をまたぐ形となったことによるものである。
(石原 正敏)

種 別	名称・員数	所在など	指 定 理 由
有形文化財 歴 史 資 料	縮問屋加賀屋 蕪木家資料 一括	十日町市 寅甲382番地1 (市博物館)	縮問屋の経営資料として、越後縮の生産、流通、使用人奉公人に関する記録など貴重な資料である。これらの資料が散逸を免れ、体系的に整理保存されていることは、今後の各種研究に大きく寄与すると思われる。
記 念 物 天然記念物	程島 下の行者の大ケヤキ	十日町市 程島巳474番地2	地上近くで分岐し、幹周9mを超える巨木である。樹形は美しく、樹勢は旺盛であり、天然記念物とするにふさわしい。
記 念 物 天然記念物	葎沢十二社の大スギ	十日町市 葎沢申217番地	幹周7mを超す巨木であり、樹勢は旺盛で見事であり、天然記念物とするにふさわしい。

第3表 平成21年度の新指定文化財

種 別	名称・員数	所在など	指 定 理 由
有形文化財 建 造 物	旧室岡家住宅 十日町市 まつだい郷土資料館 1棟	十日町市 松代3718番地	近代期最後の農家建築としてその合理性と完成度の高さを合わせ持つ主屋である。意匠的、技術的に優秀で造形の規範となり、豪雪地帯に対応した民家で地域的特性を持ち、今後再現することは容易ではない。
有形文化財 絵 画	群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双	十日町市立 松之山小学校所蔵	桃山時代絵画史の四巨匠のひとりとして、狩野永徳、長谷川等伯、海北友松と並び称された雲谷等顔の手による野馬図の新発見作として貴重。
記 念 物 天然記念物	重地の大池（溜池） 4,845m ²	十日町市 重地丁3114番地	希少動植物の生息地として貴重であり、保護のため天然記念物にするにふさわしい。
記 念 物 天然記念物	太田島小牧社の 大ケヤキ	十日町市 馬場丙699番	幹周6.75m、樹高34m。樹勢は旺盛であり、天然記念物とするにふさわしい。小牧社建立を記念して、御神木として植えられたと伝わる。
有形文化財 考 古 資 料	干溝遺跡出土 隆起線文土器	十日町市 寅甲382番地1 (市博物館)	口径25.4cm、器高33.5cm。縄文時代最古の土器群の中で、新潟県内唯一の器形復元土器である。縄文時代草創期における土器の大きさ、文様の構成などを知るうえで貴重な資料である。

第4表 平成23年度の新指定文化財



写真1 旧室岡家住宅（十日町市まつだい郷土資料館）



写真3 太田島小牧社の大ケヤキ



写真4 重地の大池



写真5 群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双

2. 国・県・市指定文化財の保存と管理

(1) 文化財保存管理委託・補助事業

十日町市教育委員会では、文化財指定を行った文化財に対しその保存・管理等のため、所有者・管理者に対して管理と補助を定額で行っている。管理委託の対象となる文化財は、清掃・雪囲い・除雪等が必要な屋外の物件、補助対象は、無形民俗文化財のうち伝承にかかる内容のものとしている。

指定文化財件数

- ・国指定文化財 7 件・県指定文化財12件・市指定文化財134件（うち市指定地域文化財26件）

指定文化財管理手数料

- ・県指定文化財 3件（93,600円）・市指定文化財36件（943,200円）

指定文化財管理補助金

- ・市指定文化財14件（140,000円）

内訳については、巻末資料を参照いただきたい。

(2) 文化財の被害

近年、当地域においては、中越地震、長野県北部地震（3/12）、新潟・福島豪雨（7/26～30）・豪雪災害等の自然災害が多発しており、少なからず、指定文化財もその被害を受けている。本年度把握しているものは、県指定文化財では十日町市松之山中尾の大杉、神宮寺観音堂、松苧神社、市指定文化財では積翠荘、神宮寺境内地等が挙げられる。

—県指定文化財の被害—

・中尾の大杉

昭和33年3月5日県の天然記念物に指定され、樹齢約1000年といわれた、旧松之山町中尾の大杉（通称「中尾の亀杉」）が、8月2日に倒木した。長野県北部地震によって地盤にひび割れが生じ、そこに豪雨等の雨水が流入したことが原因と考えられている。隣接する観音堂及びお墓も影響を受けたが、幸いにも人的被害はなかった。倒木後、亀杉の一部は競り市に掛けられ、代金は倒木によって、被害を受けた方々に配られ、一部は保存処理され、松之山「森の学校」キヨロ口に展示される予定である。また、県によってクローン種の保存が施されており、近い将来「亀杉」の幼木が植林されるかもしれない。

・松苧神社

明応6（1497）年に建立された松苧神社は、貞享元年、享保2年、寛政3年、明治17年、大正3年、昭和55年～57年に大小様々な改修が行われている。近年は、継続的に修繕が必要な箇所を重点的に補修している。本年度は、本殿の屋根グシがやせ細り、ほぞ抜けや留め具が外れる等経年劣化が著しく修繕工事を行う予定であった。しかし、豪雨の影響により、現地までの山道が崩落し工事車両が通行できなくなつたため、計画変更を行い雪囲い・雪囲い外しのみの実施となる。

・神宮寺

県指定文化財の神宮寺観音堂・山門については、平成17年～22年度までに茅屋根の葺替工事を完了したが、平成24年2月7日、本堂の屋根に積もった雪が一部茅もろとも滑り落ちてしまったため、同日被害状況の第1報を県並びに市豪雪対策本部に報告した。市指定部分については、豪雨災害で境内地が一部土砂崩れを起こしている。

—市指定文化財の被害—

・積翠荘

釧雲仙が築庭の構想をねり、亀田鵬斎等も石積みを行ったと伝わる庭園である。これも豪雨の影響で、近接した川が氾濫したため、石積みが長さ約8mにわたって崩落し、池に土砂が流入する等の被害が発生した。復旧には、所有者の負担が大きかったため、12月補正で修繕費の約50%（880,000円）の補正対応とした。

(3) その他

- ・特別天然記念物のカモシカ遺体処理

カモシカについては、4月11日（田麦地内）、12日（津池地内）、5月14日（中里下山地内）、17日（松之山湯本地内）、11月22日（焼野地内）に遺体が発見され、5頭を焼却処理した。その都度、滅失届を文化庁に提出している。

- ・文化財防火デー

1月26日、文化財防火デーに併せ、国指定重要文化財「星名家住宅」において降雪の中、防火訓練を行った。十日町消防署と川西支所地域振興課の協力を得て、消火訓練、消火器作業、貴重品搬出作業等の訓練を行った。今後の課題としては、地元消防団、隣接住民の文化財保存の意識向上をはかり、地域住民一体となった防火訓練の必要性また、火災報知機による聴覚的な危険感知だけでなく、点滅灯等を使用して視覚的に認知できるような対応も必要であることが指摘された。

- ・銃砲刀剣類等登録取り扱い

平成23年度の登録取り扱いはない。平成24年度より刀剣類の製作承認に関する事務が新潟県から権限移譲される予定である。

- ・収蔵資料の移動

旧川西町の赤谷倉庫、中屋敷倉庫に保管されていた文化財資料については、平成16年10月23日の中越地震以来手つかずの状態であったが、建物の新たな取り扱いが決まったため、旧高倉小学校体育館（高倉文化財資料収蔵庫）に移動した。

また、平成25年度に博物館のリニューアルが予定されており、その前段階として、博物館に収蔵された資料についても一部、川西文化財資料収蔵庫、高倉文化財資料収蔵庫に移転した。（太田 喜重）



写真6 中尾の大杉倒木状況



写真7 神宮寺の茅屋根一部脱落状況



写真8 積翠荘の石垣の崩落状況



写真9 防火訓練

火焰の都整備事業

この事業は、平成11年に 笹山遺跡出土品が国宝に指定されたことを機に、同遺跡を中心とした地域の保護と活用をはかることを目的に「火焰の都基本構想」が提案されたことに端を発する。

その後、財政事情等から具体的な進捗を見ることがなかったが、平成19年度に事業名を「国宝館・火焰の都整備事業」から「火焰の都整備事業」に改め、翌年度から合併特例債を充当することによって目に見える形で事業展開がなされることとなった。今年度も、市総合計画後期基本計画における重点方針【活力ある元気なまちづくり】に則り、事業進捗にあたっては地元中条地区振興会及びNPO 笹山縄文の里との協働作業を基本スタンスとし、下記に示すとおり事業をすすめた。

(1) 笹山遺跡広場整備

- ・ 笹山遺跡広場豎穴式住居実施設計委託 294,000円 (NPO 笹山縄文の里)

前年度に設置した住居よりも一回り小さな第16号住居跡のデータに基づいて、2棟目の豎穴式住居を設置するための実施設計を委託

- ・ 笹山遺跡広場整備（豎穴式住居盛土）工事 276,150円 (NPO 笹山縄文の里)

上記豎穴式住居設置による遺跡の保護を目的とした盛土工事の実施

- ・ 笹山遺跡広場豎穴式住居設置委託 4,466,700円 (NPO 笹山縄文の里)

上記実施設計に基づき、2棟目の豎穴式住居を1棟目から少し離れた遺跡広場南側に設置

(2) 笹山縄文館整備

- ・ 「十日町市 笹山縄文館条例」施行（平成23年4月1日）

「市民スポーツハウス」を遺跡のガイダンス施設及び地元振興会、NPO法人等の活動拠点としての機能を持たせた「笹山縄文館」へと転用する条例を施行

- ・ 笹山縄文館及び 笹山遺跡広場の維持管理に関する委託（火焰の都ソフトプラン事業）700,000円 (NPO 笹山縄文の里)

笹山縄文館及びその敷地、 笹山遺跡、 豊穴式住居の維持管理、 それらの使用手続きについて委託

- ・ 笹山縄文館改修工事 1,260,000円 (有限会社技工住設)

地元振興会及びNPO法人の活動拠点としての機能を向上させるため、1F 流し台にガス給湯機設置、2F 流し台を3Fに移設しガス給湯設備を備えた流しを設置、併せて隣の学習室壁を開口カウンターに改装。2F 女子トイレ1ブースを洋式に改装。2F ボイラー室の旧給湯設備撤去等の工事実施

- ・ 笹山縄文館外壁改修工事 3,496,500円 (株式会社谷内製材)

老朽化の著しい 笹山縄文館の外壁の全面改修工事を実施。既設の外壁を撤去せずにその上から新しい外壁材で覆う工法を採用。併せて、外壁の色は濃茶褐色とし旧スポーツハウスのイメージから新しいガイダンス施設としてのイメージを持たせることを目的とした工事

- ・ 笹山縄文館外壁設計・改修委託 493,500円 (NPO 笹山縄文の里)

上記外壁改修工事の施工に併せて、西側外壁の上部に 笹山遺跡が国宝火焰型土器群の出土地であることを示すデザインを設計し施工することを委託。国宝出土地としての 笹山遺跡を訪ねてくる人々への明確なサインとしての機能を持たせることを目的

(3) 用地関係

- ・ 平成22年度からの明許繰越事業となった用地については、地権者の同意及び代替地の見込みがつかないことにより取得出来なかった。また、本年度取得予定地については、一部同意が得られたが、公拝法による手続き等、時間を要するため翌年度への繰越とし早期取得手続き完了を目指すこととした。

(水落 辰美)



写真10 笹山縄文館

(4) 関連ソフト事業

火縄の都整備事業の関連ソフト事業として、①笛山じょうもん市支援（平成12年～）、②縄文の技を磨く仲間研修会開催（平成13年～）、③信濃川火縄街道連携協議会における普及啓発活動（平成14年～）などがある。③について10年間の取組みをまとめたのが第5表である。（石原 正敏）

年 度	主 な 事 業	会 長	事 務 局
H.14 (2002)	第1回縄文サミット（8.23 新潟県立歴史博物館） 「縄文シンポジウム2002 in 長岡」開催（11.16）	森 民夫 (長岡市長)	長岡市 (企画課)
H.15 (2003)	第2回縄文サミット（6.4 十日町情報館） 「フォーラム火縄街道往来2004」開催（2.14～2.15）	森 民夫 (長岡市長)	長岡市 (企画課)
H.16 (2004)	三島町が加入し、2市2町1村の構成となる 第3回縄文サミット（6.3 津南・富田屋旅館）	滝沢信一 (十日町市長)	十日町市 (文化財課)
H.17 (2005)	合併により2市1町の構成となる 第4回縄文サミット（7.28 十日町市博物館） シンポジウム「木が語る縄文ライフ」開催（10.29）	田口直人 (十日町市長)	十日町市 (文化財課)
H.18 (2006)	第5回縄文サミット（9.4 津南・富田屋旅館） 縄文楽検定の素案検討	小林三喜男 (津南町長)	津南町 (生涯学習班)
H.19 (2007)	協議会パンフレットをリニューアル 第6回縄文サミット（10.12 ながおか市民センター） カムバックサーモン事業始まる	小林三喜男 (津南町長)	津南町 (生涯学習班)
H.20 (2008)	第7回縄文サミット（8.9 クロス10） 統一サイン設置計画策定	森 民夫 (長岡市長)	長岡市 (企画課)
H.21 (2009)	新潟市が加入し、3市1町の構成となる 縄文楽検定（第1回 5.31、第2回 11.6 長岡市） 第8回縄文サミット（9.2 長岡グランドホテル） 協議会パンフレットをリニューアル 「フォーラム火縄街道往来2010」開催（2.27～2.28）	森 民夫 (長岡市長)	長岡市 (企画課)
H.22 (2010)	三条市が加入し、4市1町の構成となる 第9回縄文サミット（7.28 クロス10） 第3回縄文楽検定（3.5 新潟市・十日町市） 協議会パンフレットをリニューアル	関口芳史 (十日町市長)	十日町市 (文化財課)
H.23 (2011)	J R臨時列車「火縄街道号」の運行（6.5） 第10回縄文サミット（8.30 新潟市歴史博物館） 第4回縄文楽検定（3.3 新潟市・長岡市・十日町市）	関口芳史 (十日町市長)	十日町市 (文化財課)
H.24 (2012)		篠田 昭 (新潟市長)	新潟市 (歴史文化課)
H.25 (2013)		篠田 昭 (新潟市長)	新潟市 (歴史文化課)

第5表 信濃川火縄街道連携協議会の歩み（平成24年3月31日現在）

III. 埋蔵文化財

1. 発掘調査

平成23年度の発掘調査の内訳は、本調査6件、確認調査1件、試掘調査10件である。調査原因是本調査が国道改良、県営中山間地域総合整備、市営土地改良事業、県道改良で、確認調査は保存目的の範囲確認調査である。試掘調査の原因は多岐にわたり区画整理、携帯電話基地局建設、土砂採取、国道改良、ため池整備などである。

以下に各調査の概要をまとめるが、確認調査と試掘調査の詳細については『平成23年度十日町市内遺跡試掘・確認調査概要報告書』を参照願いたい。

本調査

(1) 干溝東遺跡・小原遺跡

干溝東遺跡はJR飯山線の越後田沢駅の北西250m、小原遺跡は越後田沢駅の北350m、両遺跡ともに信濃川右岸段丘上に位置している。標高は干溝東遺跡が約210m、小原遺跡が約205mで、現況は山林・水田・畠地である。両遺跡は平成22～23年に実施した試掘調査で新たに発見された遺跡である。

調査は、一般国道353号小原バイパス 交通連携推進（国道改築）工事に伴い実施した。試掘調査の結果をもとに調査範囲・調査面積を計画し、干溝東遺跡は平成23年6月20日～11月10日まで行った。調査面積は1,000m²（A区：336m²、B区388m²、C区276m²）である。

調査の結果、A区の現況が山林、B区が水田、C区が畠地・宅地だったため、A区とC区（畠地部分）は比較的、土層の堆積状況は良好であったが、B区とC区（宅地部分）は削平を受けていた。検出された遺構はA区が縄文時代の竪穴状遺構・土坑・集石土坑、近世の溝状遺構、B区が縄文時代の土坑・柱穴・焼土、C区が縄文時代の土坑・柱穴、中世の竪穴状遺構・土坑・柱穴などである。出土遺物はA区が縄文土器・石器・近世の灯明皿、B区が縄文土器（前期の諸磯式）・石器、C区が縄文土器（前期の花積下層式）・石器・中世の珠洲焼・陶磁器などである。

小原遺跡は平成23年10月24日～12月15日まで行った。調査面積は660m²（A区：416m²、B区70m²、C区174m²）である。

調査は降雪の影響で中断せざるを得なかったため、平成24年度に継続して行う予定である。



写真11 干溝東遺跡 作業風景

(2) 白羽毛遺跡

白羽毛遺跡は清津川と釜川の合流点から南東へ約900m、旧高道山小学校から南へ約200mの清津川右岸段丘上に位置している。調査地点の標高は約347m～356mの緩傾斜地で貝坂面に位置していると考えられる。清津川の現河床面との比高差は約90mを測り、現況は水田・畠地である。本遺跡は平成22年秋に実施した試掘調査で範囲拡張された遺跡である。

調査は、県営中山間地域総合整備事業に伴い実施した。試掘調査の結果をもとに調査範囲・調査面積を計画し、平成23年6月27日～9月7日まで行った。調査面積は2,200m²である。

調査の結果、縄文時代中期と考えられる縄文土器や石器（打製石斧・石鏃など）が出土した。

(3) 下原田A遺跡・下原田B遺跡

下原田A遺跡は十日町自動車学校から北東へ約600m、下原田B遺跡は北東へ約450m、両遺跡ともに信濃川右岸段丘上に位置している。標高は下原田A遺跡が約159m、下原田B遺跡が約158mで、現況は畑地・水田である。両遺跡は平成22年に実施した試掘調査で新たに発見された遺跡である。

調査は市営土地改良事業に伴い実施した。試掘調査の結果をもとに調査範囲・調査面積を計画し、下原田B遺跡が平成23年5月9日～8月31日、下原田A遺跡が平成23年8月29日～10月14日まで行った。調査面積は下原田B遺跡が約1,100m²、下原田A遺跡が約450m²である。

調査の結果、下原田B遺跡から検出された遺構は縄文時代の土坑が14基、出土した遺物は縄文時代中期の土器片、打製石斧や加工痕のある剥片などの石器である。下原田A遺跡から検出された遺構は土坑が5基、出土した遺物は縄文時代中期の土器片、打製石斧などの石器である。



写真12 下原田B遺跡 完掘状況

(4) 貝野沢田遺跡

貝野沢田遺跡は貝野郵便局の北150m、貝野小学校の南東250m、信濃川左岸段丘上を流れる下沢川と南西方向からの沢状地形に挟まれた台地上に位置している。標高は約186m、信濃川の現河床面との比高差は約36m、下沢川の現河床面との比高差は約4mで、現況は水田である。本遺跡は平成22年夏に実施した試掘調査で新たに発見された遺跡である。

調査は、主要地方道小千谷十日町津南線 緊急地方道（改築）事業に伴い実施した。試掘調査の結果をもとに調査範囲をI～V区の5つに分け、I・V区は平成22年度に調査を実施した。今年度はII・III・IV区を対象に、平成23年9月29日～12月9日まで行った。調査面積は約591m²である。

調査の結果、昨年度の調査に引き続き縄文時代草創期と考えられる石器製作址が確認された。調査範囲は田直しに伴う削平や宅地に伴う造成や攪乱を受けていたため、明確な遺構は検出されなかった。縄文時代草創期と考えられる石器製作址は信濃川と下沢川に向かう緩傾斜地に位置している。集中部の遺物は、石槍基部や石槍未製品、スクレイパー、多量の調整剥片など約1,200点が出土し、土器は共伴していない。石器に使用されている石材は無斑晶ガラス質安山岩がほとんどを占め、頁岩と凝灰岩が少量使用されている。調査所見では縄文時代草創期として捉えているが、明確な帰属時期については整理作業時に様々な角度からの検討が必要である。

確認調査

確認調査は、保存目的の範囲確認調査を実施した田沢遺跡である。平成21年度(第2次調査)から始め、今年度は3年目の第4次調査である。詳細は後述するⅢ 2を参照願いたい。

試掘調査

試掘調査は、区画整理（西本町地区）、携帯電話基地局建設（細尾地区・美佐島地区・菅沼地区）、土砂採取（六箇地区・南雲原地区）、国道改良（干溝・小原地区）、ため池整備（新町新田地区）に伴って行われた。これらのうち干溝・小原地区で遺構や遺物が確認され、小原遺跡として新遺跡の登録を行った。小原遺跡は平成23年度から本調査を実施し、平成24年度に継続して行う予定である。

(笠井 洋祐)

2. 保存目的の範囲確認調査

信濃川と清津川の合流点を中心とした十日町市（旧中里村）と津南町には、田沢遺跡、中林遺跡、壬遺跡（以上十日町市）、卯ノ木遺跡、卯ノ木南遺跡、本ノ木遺跡（以上津南町）などの縄文時代草創期遺跡が数多く立地している。これら草創期遺跡群は分布密度、遺跡存続時間、多様な性格など、全国的に見て縄文文化の遡源とその形成を研究するにあたり極めて学術的に重要なものである。この遺跡群を恒久的に保存する目的で、十日町市と津南町は平成20年度に本格的な協議を行い、平成21年度から主要遺跡の範囲や内容、性格を確認するための調査を開始することとした。

十日町市では、まず対象遺跡を田沢遺跡、中林遺跡、壬遺跡の3遺跡に絞り、それぞれ過去の調査経歴などを検討した。その結果、壬遺跡は昭和54年から昭和61年の間に國學院大學の考古学実習で5回、平成3年に鉄塔建設に伴う発掘調査で1回の計6回発掘調査が実施されている。これらの調査により、範囲や内容、性格が明らかになっているため、確認調査は必要ないと判断になった。田沢遺跡と中林遺跡はそれぞれ過去に1回ずつ調査が行われているが、遺跡の位置と範囲が明確でないため、この2遺跡を調査対象とし、田沢遺跡の調査を平成21年度から開始した。

田沢遺跡は信濃川と清津川の合流点から北東へ約200mの信濃川及び清津川の右岸段丘上に位置している。標高は約208m、信濃川の現河床面との比高差は約33mを測り、現況は畑地・山林である。遺跡が発見された経緯や詳細な年代は明らかではないが、昭和30年代に十日町市在住の島田靖久氏、津南町在住の石澤寅二氏（故人）、石澤寅義氏（故人）がそれぞれ表面採集を行い良好な資料が採集されている。これらの採集資料を元に、東北大考古学研究室が昭和43年10月に13日間の第1次発掘調査を実施し、隆起線文土器、有舌尖頭器、木葉形尖頭器、片刃石斧、スクレイパーなどが出土した。発掘調査報告書が刊行されていないため、調査位置や面積、出土遺物の全容などは不明である。

第2次調査は、平成21年9月3日～10月19日まで行い、調査面積は31.6㎡（1～3トレンチ）である。上述したとおり第1次調査のトレンチ位置が不明なため、第2次調査の目的は旧トレンチ位置の把握、遺跡の広がりを確認することである。調査の結果、旧トレンチと新たな縄文草創期の遺物集中範囲を確認することはできなかったが、縄文早期中葉の押型文土器が集中する分布域（2トレンチ）が1箇所確認された。検出遺構は詳細時期不明の焼土址1基、出土遺物は単独出土の有舌尖頭器基部1点、押型文土器片49点、加工痕のある剥片1点、剥片・碎片・調整剥片13点である。

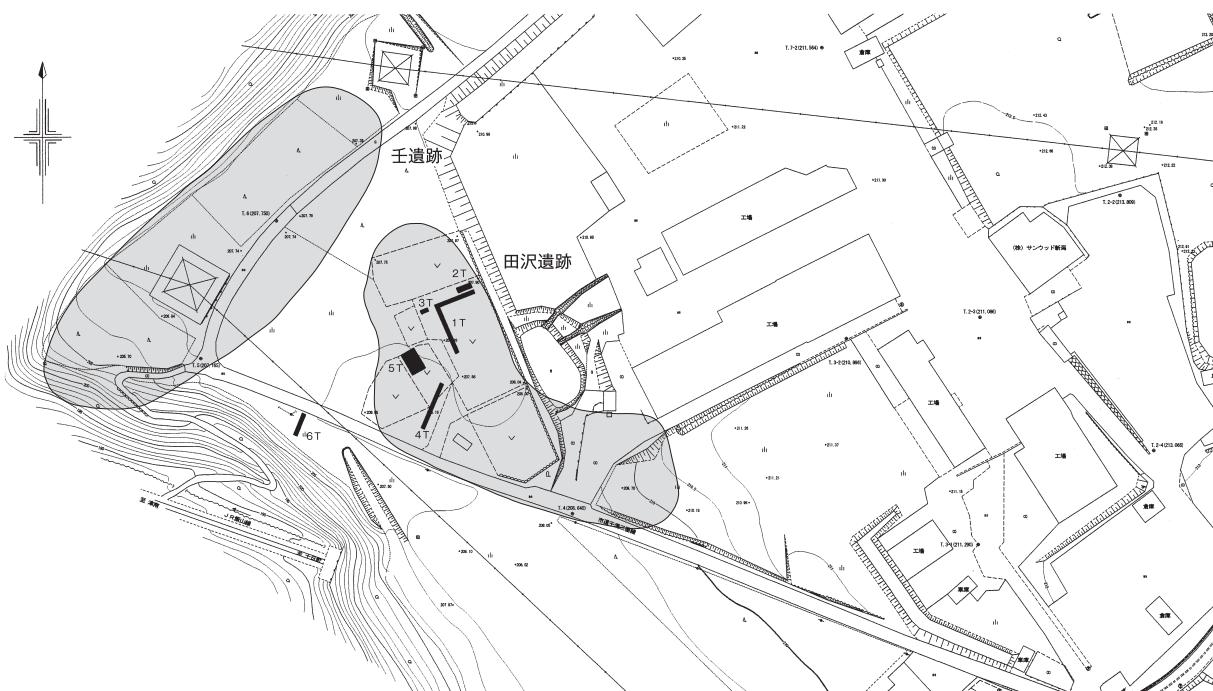


図1 田沢遺跡の調査トレンチ位置図（1：2,000）

第3次調査は、平成22年10月20日～12月13日まで行い、調査面積は13m²（4トレンチ）である。調査目的は第2次調査と同じく第1次調査のトレンチ位置把握と遺跡の広がりを確認することである。調査の結果、設定したトレンチの北側で第1次調査トレンチの一部を確認することができた。埋土からは隆起線文土器片2点、土器無文部7点、石槍基部1点、石鏃1点、加工痕のある剥片1点、敲石1点、多量の調整剥片が出土した。一方、トレンチ南側では第1次調査の際に掘削されなかった範囲が確認された。堆積土を観察しながら慎重に精査した結果、土器無文部5点、石槍3点、石鏃1点、加工痕のある剥片1点、使用痕のある剥片1点、敲石3点、多量の剥片・碎片・調整剥片が出土した。検出された遺構は焼土址1基だが、詳細時期は不明である。

第4次調査は、平成23年9月14日～11月17日まで行い、調査面積は35m²（4トレンチ一部、5・6トレンチ）である。調査目的は第3次調査で確認された4トレンチの未掘削範囲の精査と遺跡の広がりを確認することである。調査の結果、4トレンチでは隆起線文土器片1点、土器無文部1点、使用痕のある剥片1点、敲石1点、剥片・碎片・調整剥片16点が出土した。5トレンチでは第1次調査トレンチの一部が確認され、未掘削範囲で剥片・調整剥片15点が出土したが散漫な分布状況であった。6トレンチ付近は田沢遺跡・壬遺跡の周知範囲外だが、遺跡の広がりと堆積土の確認を行うために調査を行った。調査の結果、新たな遺物集中範囲が発見され、爪形文土器片16点、爪形文+押圧縄文土器片1点、押圧縄文土器片3点、土器無文部1点、石鏃1点、加工痕のある剥片1点、使用痕のある剥片1点、敲石1点、剥片・碎片4点が出土した。

第2次～4次調査までの調査成果を概観すると、①第1次調査の調査トレンチの一部が明らかになったこと、②6トレンチで縄文草創期の新たな遺物集中範囲が発見されたこと、③縄文早期中葉の押型文土器分布域が明らかになったこと、である。第3・4次調査で確認された第1次調査トレンチ位置と周辺地形を子細に検討すると、南東→北西方向に流れる清津川本流とほぼ平行に自然堤防状の微高地が観察できる。調査トレンチはその微高地上に設定されていることから、隆起線文土器段階では自然堤防上の微高地が当時の活動場所だったことが推定される。一方、第4次調査で新たな遺物集中範囲が見つかった6トレンチは、その自然堤防から清津川本流に向かう南西方向の緩傾斜地に堆積した土層から遺物が出土している。爪形文・押圧縄文土器段階ではより清津川に近い緩斜面地に活動場所が移っており、段階による活動場所の変化を伺うことができる。また、縄文早期中葉の押型文土器は自然堤防から北東方向に向かう緩傾斜地（いわゆる後背湿地側）に堆積した黒褐色土中から出土しており、縄文草創期の分布状況とは異なる。

現在は出土遺物の水洗・注記作業、計測作業などの基礎整理作業が終了しているだけのため、詳細に検討すべき課題は多々ある。今後は堆積土層のより詳細な検討を行い、周辺地形の変遷を考え、本格的な整理作業ではより詳細に時期別の遺物分布や内容、性格を検証し、草創期遺跡群全体の中での位置づけなどを多角的に検討する必要がある。

（笠井 洋祐）



写真13 第1次調査トレンチ検出状況
(4トレンチ)



写真14 出土遺物
(上段右:表採)

3. 笹山遺跡学術調査（発掘）事業

調査の経緯

笹山遺跡は信濃川右岸段丘上の標高170～180mに位置し、段丘編年上では完新世の沖積段丘である根深面上に立地する。中条乙3081番地ほかに所在し、現況は畠である。遺跡は1980～1985年度（昭和55～60年度）に市営陸上競技場、笹山野球場、市道笹山線、市民スポーツハウス等の建設に伴って1～7次の本調査が実施され（十日町市教育委員会編1998）、また、2002～2004年度（平成14～16年度）にかけて範囲確認調査が実施された（十日町市教育委員会編2005）。2011年度（平成23年度）の調査は国宝出土地・笹山遺跡学術調査（発掘）事業のもと、2011年～2015年のうち前3カ年の初年にあたる。本調査としては8次となる。

範囲確認調査の結果を参考に、期間及び範囲を計画した。期間は8月21日から11月18日までとし、当初計画の調査面積を1005m²とした。調査面積についてはしかし、調査開始前に排土置き場として予定していた範囲に土を運搬する経路に支障があることが分かったため、排土置き場を急遽変更して調査区内に設定し、結果として実際の掘削面積は約半分の500m²とした。排土置き場は範囲確認調査時に殆ど遺物が出土しないことが判明していた場所である。調査は予定通り11月18日に完了した。

調査成果

調査の結果、中世の陶器片と縄文時代の遺構・遺物が検出された。縄文時代の遺構は、竪穴住居跡1～3軒、土坑数基、焼土（炉跡）数箇所が検出された。竪穴住居跡はまだ完掘しておらず、数は未確定だが、1軒以上であることは確実である。竪穴が検出された事例は1～7次調査で発見された第1号住居とあわせて2例目で、貴重な発見となった。土坑はいずれも浅く、内部に土器または亜円礫がまとまって検出されたが、その機能は不明である。柱穴の可能性もあるが、調査区の東端に位置して壁に遮られていたため、配列等を検討することができなかった。焼土はおそらく炉に伴うものと推定される。なお、竪穴住居跡については調査終了時期が差し迫っていたため、その重要性を鑑み、埋土の掘削は次年度に繰り越すこととした。

遺物は土器（鉢類：写真15、土偶、三角壇形土製品）、石器（石鏃、石槍、石斧、石皿、磨石、敲石、剥片、石核など）、材（粘土塊、ベンガラ塊）などが検出された。また、炉跡に由来すると推定される炭化材を採取した。土器は整理中ながら、文様や器形から縄文時代中期前葉から後期前葉に帰属するものが認められ、従来の調査成果と良く合致している。石器は石鏃、石槍が少なく、石斧が多いようである。



写真15 遺物出土状況

笹山縄文カレッジ

本事業では学術調査のほかに、市民向けの社会教育にも取り組んでいる。この取り組みについては「笹山縄文カレッジ」と命名し、その中で23年度は「みんなで掘る笹山遺跡」と「ささやまラボ」の2つの企画を実施した。当初予定していた「バックヤード・ツアー」については諸般の事情により今年度は実施しなかった。

「みんなで掘る笹山遺跡」(写真16)は、一般参加の発掘体験（午前・午後）と毎週金曜日の発掘見学からなり、8月27日から10月29日までの毎週土曜日にそれぞれ18回と9回実施した。発掘体験は18回のうち4回が雨天中止や調査の都合上から中止になったほかは全日程に参加者が集まり、参加者数は延べ179人となった。また、特別メニューでの近隣小学校の学級参加が105人となった。他方、見学参加者は殆どなく、延べ8人だった。

「ささやまラボ」(写真17)は、一般参加の整理作業体験で、2月11日から3月24日までの隔週土曜日に4回開催した。一日あたりの定員は10名だったが、第1回目は7名、第2回目は11名、第3回目の予約が13名、第4回目の予約が15名と、ほとんどが定員を超える盛況さだった。

文化遺産カード

本事業では学術調査と社会教育のほかに、市の観光振興にも取り組んでいる。この取り組みについての企画名はないが、今年度は「文化遺産カード」の発行を実施した(写真18)。文化遺産カードとは、愛知県・岐阜県を中心として広がりを見せているコレクション・カードの一種で、文化遺産の社会的普及・促進と地域振興を目的として、各地の文化遺産1件につき1枚発行されるカードである。今年度3月中に発行し、来年度4月より運用を開始する予定である。

(阿部 敬)



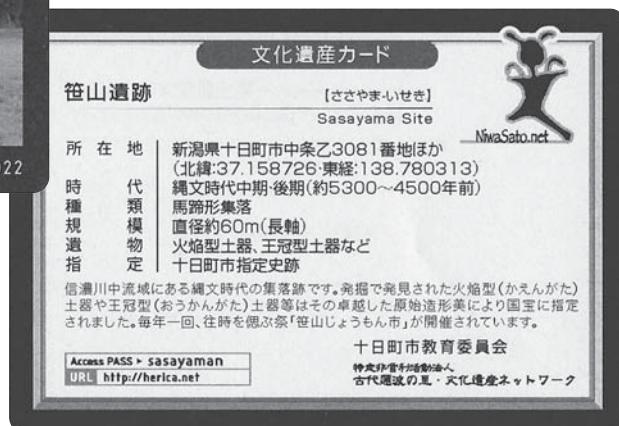
写真16 「みんなで掘る笹山遺跡」会場横断幕



写真17 「ささやまラボ」の様子



写真18 文化遺産カードの表(左)と裏(右)



4. 埋蔵文化財調査報告書作成事業

本事業では、平成8年に調査された野首遺跡の遺物整理作業を行っている。本遺跡は縄文時代中～後期の大規模環状集落で、土器捨て場より膨大な量の遺物が出土したため、発掘調査報告書の刊行が大幅に遅れている。報告書は3分冊で刊行する計画であり、昨年度は第1分冊の『野首遺跡発掘調査報告書I』(遺構編)を刊行した。第2分冊の遺物編1(中期の土器・土製品／中・後期の石器・石製品)は平成26年度、第3分冊の遺物編2(後期の土器・土製品)は平成28年度に刊行予定である。

本年度は土器・石器の実測作業を継続して行った。両者とも写真実測により実測図を作成しており、小川忠博氏に撮影(デジタル)をお願いしている。土器は嘱託研究員がイラストレーター(グラフィックソフト)で図面を作成し、一部の個体について業者に委託した。石器は担当者が実測図を作成し、デジタルトレスを業者に委託している。これまでに中期の土器は250個体ほど復元されているが、後期の土器の本格的な復元作業はこれからである。また、整理作業の中で、土器について寺崎裕助氏(新潟県立歴史博物館)、山口逸弘氏(群馬県埋蔵文化財調査事業団)、綿田弘実氏(長野県埋蔵文化財センター)、佐藤雅一氏(津南町教育委員会)、小熊博史氏(長岡市立科学博物館)、石器石材について中村由克氏(野尻湖ナウマン象博物館)より指導していただいた。

なお、本事業では昨年度に引き続き森上遺跡出土火焔型土器1点の解体修理(業者委託)を行っている。(菅沼亘)



写真19 森上遺跡火焔型土器の修理前(左)と修理後(右)

No.	書名	刊行年	No.	書名	刊行年
1	小坂遺跡	1961	23	平成14年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2003
2	十日町市苗場山麓地域農業関連事業予定区域内遺跡分布調査(第1次)概報	1974	24	江道A遺跡発掘調査概要報告書	2004
3	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報	1975	25	平成15年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2004
4	馬場上遺跡－第1次・第2次発掘調査概報－	1975	26	伊達八幡館跡発掘調査報告書	2005
5	馬場上遺跡－第3次・第4次発掘調査概報－	1976	27	江道B・C遺跡発掘調査概要報告書	2005
6	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報2	1976	28	笛山遺跡確認調査報告書	2005
7	つつじ原遺跡	1979	29	平成16年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2005
8	坪野館跡	1981	30	平成17年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2006
9	野首遺跡発掘調査概要報告書	1997	31	中島遺跡発掘調査報告書	2006
10	島A遺跡発掘調査概要報告書	1997	32	内後遺跡発掘調査報告書	2006
11	寿久保・春山遺跡発掘調査概要報告書	1998	33	土橋遺跡発掘調査報告書	2006
12	原田B遺跡発掘調査概要報告書	1998	34	幅上遺跡発掘調査報告書	2007
13	つつじ原C遺跡発掘調査概要報告書	1998	35	上ノ山開墾地遺跡発掘調査概要報告書	2007
14	笛山遺跡発掘調査報告書	1998	36	平成18年度 十日町市内遺跡発掘調査報告書	2007
15	平成10年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	1999	37	貝野久保遺跡発掘調査報告書	2008
16	平成11年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2000	38	平成19年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2008
17	平成10・11年度 県営ほ場整備事業上組工区内遺跡発掘調査概要報告書	2000	39	梶花遺跡発掘調査報告書	2009
18	道下南遺跡発掘調査概要報告書	2001	40	平成20年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2009
19	平成12年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2001	41	真萩田遺跡発掘調査報告書・貝野大道下遺跡発掘調査報告書	2010
20	道端A・B遺跡発掘調査概要報告書	2001	42	平成21年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2010
21	平成13年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2002	43	野首遺跡発掘調査報告書I <遺構編>	2011
22	馬場上遺跡発掘調査報告書	2003	44	平成22年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書	2011

第6表 埋蔵文化財発掘調査報告書刊行一覧(太字は本事業で刊行)

IV. その他

1. 博物館教育普及事業

教育普及事業は特別展、企画展、講座、体験教室、古文書講座の5つで構成されており、本年度の事業実績は第7表のとおりである。

夏季特別展では、平成21年に調査された市内樽沢開田遺跡（縄文時代後・晚期）において多彩な土製耳飾りが出土していることから、県内および周辺地域の土製・石製装身具（重文3件含む）を集め、縄文時代のオシャレを紹介した。また、新たな試みとして新館2階の中世考古展示室を改装して開催している。企画展では、平成17～22年度に調査された主要な9遺跡の出土品を展示了。

博物館講座では、昨年の縄文から古墳時代に引き続きパート2として、県内の研究者を講師に招き古代から近世の考古学の研究成果を学んでいる。体験教室では、縄文体験として夏休み期間中に土製耳飾り・勾玉づくり、冬にはドングリクッキーづくりを企画した。

なお、8月上旬に行った博物館実習では3人の実習生を受け入れている。
(菅沼 巨)



写真20 夏季特別展「縄文のKAZARI 一顔を飾る縄文人ー」



写真21 子ども博物館 I・縄文体験「土製耳飾り・勾玉づくり」

事 業	内 容	日時(期間)	会 場	参集者数
貸 館	「十日町市書道協会展」	6/12～14	特別展示室	
特 別 展	「縄文のKAZARI 一顔を飾る縄文人ー」	7/30～9/11	新館2階 考古展示室	1,833
	記念講座①：「縄文人と耳飾り」 設楽博己氏（東京大学大学院教授）	8/6	特別展示室	36
	記念講座②：「東アジアにおける玦飾の起源と拡散」 藤田富士夫氏（日本考古学協会会員）	9/3		31
移 動 展	「十日町市名誉市民 児玉輝彦画伯 没後20年記念作品展」	9/28・29	千手中央コミュニティセンター	227
企 画 展	「十日町市内遺跡発掘調査速報展」	11/26～3/25	新館1階 考古展示室	
	信濃川火焰街道連携協議会・博学連携プロジェクト 「子ども縄文研究展2011 ー縄文のメッセージ・私のメッセージー」	12/23～1/15	特別展示室	191
収蔵資料展	「いにしえの十日町の着物」	2/1～26	特別展示室	
博物館講座	「新潟県の考古学最前線Ⅱ」			
	①古代：「発掘が語る古代の越後・佐渡」 春日真実氏（新潟県埋蔵文化財調査事業団）	7/2		28
	②中世：「新潟平野の舟運から古代・中世の流通を復元する」 鶴巻康志氏（新発田市教育委員会）	7/9	特別展示室	18
	③近世：「越後における肥前陶磁器の流通」 安藤正美氏（見附市教育委員会）	7/16		15
子ども博物館	①縄文体験「土製耳飾り・勾玉づくり」	8/7	1階ロビー	8
	②縄文体験「ドングリクッキーづくり」	12/10	特別展示室	10
古文書講座	入門（19回）	6～3月	会議室	15(受講者)
	中級（19回）			23(受講者)
博物館実習	3人(跡見学園女子大・新潟大・大正大)	8/5～11		

第7表 平成23年度 博物館教育普及事業一覧

2. 文化財資料の保存と活用

(1) 実物資料の貸出

貸 出 先	特 別 展 名	会 期	貸 出 資 料	備 考
福岡市博物館	吉村作治の 古代七つの文明展	6月17日～9月4日	国宝・笛山遺跡土器1点、笛山遺跡 土器2点ほか計5点	図録あり
愛媛県立美術館		9月11日～11月13日	国宝・笛山遺跡土器1点、笛山遺跡 土器1点ほか計5点	
長岡市馬高縄文館	国宝・重文火炎土器展	9月17日～11月6日	国宝・笛山遺跡土器2点	パンフあり
新潟県立歴史博物館	にいがたの土偶 —発掘された新潟の歴史 2011—	9月23日～11月20日	国宝・笛山遺跡土偶ほか約230点	図録あり
山梨県立考古博物館	縄文土器名宝展 —縄文芸術の到達点—	9月28日～11月23日	国宝・笛山遺跡土器レプリカ1点	図録あり
長岡市立科学博物館	荒屋遺跡と旧石器文化展	10月8日～12月11日	愛宕山遺跡石器ほか約600点	パンフあり
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	縄文至宝展	10月15日～11月13日	国宝・笛山遺跡土器 1点	図録あり

第8表 考古資料の貸出一覧

主 な 貸 出 先	写真等貸出	掲載許可	計
(株)秀学社、(株)小学館、(株)東京書籍、(株)日本文教出版、(株)浜島書店、(株)美術出版社、 (株)ペネッセコーポレーション、(株)山川出版社ほか	42	42	84

第9表 写真資料等の貸出一覧

(2) 普及啓発活動

	協 力 内 容	協 力 先	期 日	担当職員
1	とおかまち市民討議会2011講話	千手中央コミュニティセンター	2011.5.22	石原正敏
2	大江山縄文学習会	小さな美術館「季」	2011.7.23	石原正敏
3	縄文体験教室	長岡市馬高縄文館	2011.8.7	笠井洋祐
4	「国宝・重文火炎土器をさぐる」講演	長岡市馬高縄文館	2011.9.25	菅沼 亘
5	平成23年度農業者年金受給者組織役員代表者研修会	まつだいふるさと会館	2011.10.27	石原正敏
6	市町村遺跡報告会「土偶がたくさん出土した遺跡」	新潟県立歴史博物館	2011.11.13	菅沼 亘
7	第XⅡ期縄文学講座	渋川市北橋公民館	2011.12.16	石原正敏
8	長野県博物館職員研修会	長野県立歴史館	2012.2.7	菅沼 亘

第10表 他市町村及び各種団体への協力一覧

(3) 普及啓発等に関する職員の著作

阿部 敬 2011「旧石器時代研究の諸問題—列島最古の旧石器を探るー」『旧石器研究』第7号
日本旧石器学会

石原正敏 2011a「新潟県地方史研究の動向」『信濃』63-6信濃史学会（共著）

2011b『信濃川火焔街道 縄文の旅』信濃川火焔街道連携協議会（共著）

笠井洋祐・石原正敏 2011『平成22年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』十日町市教育委員会

菅沼 亘・宮内信雄 2011『野首遺跡発掘調査報告書 I <遺構編>』十日町市教育委員会

菅沼 亘 2011『縄文のKAZARI—顔を飾る縄文人—』十日町市博物館（編著）

資料

1. 十日町市の指定文化財一覧

平成24年3月31日現在

[国宝]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
1	考古資料	新潟県笛山遺跡出土深鉢形土器 57点 (附 土器・土製品類・石器・石製品類・ベンガラ魂 871点)		平11.6.7	西本町1	十日町市(博物館)	縄文時代

[重要文化財]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
2	建造物	松茅神社本殿	1	昭54.5.31	犬伏	松茅神社	明応6年
3	建造物	星名家住宅	7棟	平3.5.31	上野甲	星名四郎	天保13年
4	有形民俗	越後縮の紡織用具及び関連資料	2,098点	昭61.3.31	西本町1	十日町市(博物館)	江戸～明治
5	有形民俗	十日町の積雪期用具	3,868点	平3.4.19	西本町1	十日町市(博物館)	江戸～昭和30年代
6	名勝	田代の七ツ釜		昭12.6.15	田代	中里村・津南町	
7	名勝	清津峡		昭16.4.23	小出	中里村・湯沢町	

[新潟県指定文化財]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
1	建造物	神宮寺観音堂・山門	2棟	平3.3.29	四日町	神宮寺	江戸期
2	絵画	山水図釣雲泉筆六曲屏風	1双	昭29.2.10	山本	関口芳央	江戸末期
3	彫刻	木造十一面千手観音立像	1躯	昭46.4.13	四日町	神宮寺	平安後期
4	彫刻	木造四天王立像(伝広目天・伝毘沙門天)	2躯	昭49.3.30	四日町	神宮寺	平安末期
5	考古資料	伊達八幡館跡出土品	281点	平20.3.25	西本町1	十日町市(博物館)	中世
6	考古資料	久保寺南遺跡出土品	309点	平22.3.23	西本町1	十日町市(博物館)	縄文草創期
7	有形民俗	越後縮幡	74旒 (追50.3.29)	昭49.3.30	吉田山谷ほか	吉田社 他6社 (博物館)	江戸～明治期
8	史跡	大井田城跡		昭53.3.31	中条	十日町市	南北朝期
9	天然記念物	赤谷十二社の大ケヤキ	1本	昭33.3.5	赤谷	赤谷十二社	幹囲10.1m
10	天然記念物	中尾の大杉	1本	昭33.3.5	中尾	中尾地区	幹囲9.0m
11	天然記念物	小貫諏訪社の大スギ	1本	昭53.3.31	小貫	諏訪神社	幹囲8.33m
12	天然記念物	角間のねじり杉	1本	昭60.3.29	角間	角間地区	

[新潟県選定保存技術]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
—	選定保存技術	屋根葺(茅葺)		平12.3.24	十日町・太平	斎木春治・市川新一郎 他2名	神宮寺・松茅神社

[十日町市指定文化財]

番号	種別	名 称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備 考
1	建築物	千手観音堂仁王門	1棟	昭54.6.23	友重	長徳寺	寛延2年
2	建築物	智泉寺山門	1棟	平6.3.23	昭和町3	智泉寺	江戸中期
3	建築物	觀泉院山門	1棟	平7.3.24	土市	觀泉院	江戸中期
4	建築物	旧室岡家住宅(十日町市まつだい郷土資料館)	1棟	平23.4.26	松代	十日町市	
5	絵画	一遍上人絵詞伝	8巻	昭54.9.12	川原町	小林賢有	江戸中期
6	絵画	板絵	1対	平4.12.14	犬伏	松茅神社	明応3年
7	絵画	群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双	1双	平23.4.26	松之山	十日町市 (松之山小学校)	
8	彫刻	木造狛犬	2躯1対	昭45.8.7	犬伏	松茅神社	応永10年
9	彫刻	木造馬頭観音坐像	1躯	昭45.8.7	犬伏	白馬観音堂	応永10年
10	彫刻	銅造阿弥陀如来立像	1躯	平1.12.14	蒲生	中村栄作	鎌倉期
11	彫刻	木造聖観音坐像	1躯	平4.12.14	海老	海老区	慶長期
12	彫刻	銅造十三仏像	1躯	平4.12.14	松代	長命寺	桃山期
13	彫刻	鉄造聖観音立像	1躯	平3.2.1	松之山	陽広寺	鎌倉末～南北朝
14	彫刻	木造延命地蔵菩薩立像	1躯	平3.2.1	觀音寺	觀音寺	桃山期
15	彫刻	銅造地蔵菩薩立像	1躯	平3.2.1	天水越	天水越不動堂	永禄9年
16	彫刻	木造聖観音立像	1躯	平3.2.1	中尾	中尾觀音堂	桃山～江戸前
17	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1躯	平8.3.21	川原町	来迎寺	鎌倉後期
18	彫刻	木造聖観音立像	1躯	平13.3.22	新宮	竜王山講中	戦国期末
19	工芸品	短刀(備州兼光作)	1口	昭45.8.7	犬伏	松茅神社	戦国期
20	工芸品	軍配	1握	昭45.8.7	犬伏	松茅神社	戦国期

21	工芸品	雲板	1面	昭45.8.7	室野	洞泉寺	康正2年銘文 寛政2年再鋲
22	工芸品	越後縮裂見本帳	2冊	昭47.11.28	本町	蕪木孫右	江戸期
23	工芸品	神輿	1基	昭56.2.26	犬伏	犬伏区	安土桃山期
24	工芸品	十日町織物歴代標本帳	47冊	昭62.2.23 (追平1.2.16)	西本町1	十日町織物工業協 同組合(博物館)	明治25年~昭和13年 明治42年~昭和8年
25	工芸品	雲板	1面	平7.8.24	倉俣	東光寺	嘉吉元年 銘文に波多岐莊
26	工芸品	宮本茂十郎手織の透綾(絹縮)裂地	3点	平13.3.22	西本町1	十日町織物工業協 同組合(博物館)	江戸末期 金登屋「麗形帳」のうち
27	古文書	堀監物直政書状・松平忠輝家老衆定書	1幅	平3.2.1	松之山	村山芽久美	
28	古文書	松亭神領筋平一村壳渡証文	1通	平6.12.15	松代	宮沢正翁	
29	古文書	松平忠輝宛行状	1通	平7.8.24	堀之内	南雲三代治	物在堀之内
30	古文書	田沢村天和検地帳 附:宝暦検地帳20冊、その他検地帳11冊	29冊	平7.8.24	西本町1	十日町市(博物館)	原本
31	古文書	太子堂村検地帳	4冊	平12.3.21	西本町1	若井基八郎(博物館)	中世~
32	考古資料	長徳寺板碑	1基	昭51.3.3	友重	長徳寺	応長元年
33	考古資料	鶴吉釈迦堂の自然石板碑	6基	昭51.3.3	鶴吉	鶴吉地区	貞和5年、正平9、15年
34	考古資料	山田觀音堂跡の自然石板碑	4基	昭51.3.3	霜条	霜条地区	正平6年 他
35	考古資料	坪山神社の自然石板碑	1基	昭51.3.3	坪山	坪山地区	正平8年
36	考古資料	月見ヶ原公園の自然石板碑	1基	昭51.3.3	伊勢平治	長徳寺	南北朝期
37	考古資料	友重行者堂の自然石板碑	1基	昭51.3.3	友重	白山神社	正平14年
38	考古資料	北田如意庵の自然石板碑	3基	昭51.3.3	仁田	仁田地区	正平14年 他
39	考古資料	三領の自然石板碑	4基	昭51.3.3	三領	水晶仁呉	南北朝期(2基)
				昭60.5.28		水晶仁呉 高橋一	南北朝期
40	考古資料	霜条の自然石板碑	2基	昭51.3.3 昭51.8.25	霜条	藏品完三 丸山高夫	南北朝期
41	考古資料	鶴吉の自然石板碑	1基	昭51.3.3	鶴吉	田村清仁	正平8年
42	考古資料	中屋敷の自然石板碑	1基	昭51.3.3	中屋敷	山崎和雄	南北朝期
43	考古資料	野口の自然石板碑	1基	昭52.2.27	野口	村越勝	南北朝期
44	考古資料	元町の自然石板碑	2基	昭60.5.28	上野	押木栄二	南北朝期
45	考古資料	仁田の自然石板碑	3基	昭60.5.28	仁田	吉井正司、高橋セ ツ、小幡藤吉	南北朝期
46	考古資料	木落の自然石板碑	1基	昭60.5.28	木落	和久井富夫	南北朝期
47	考古資料	桐山の自然石板碑	2基	平1.12.14	桐山	十二神社	文和4.5年
48	考古資料	馬場上遺跡出土品	一括	平2.2.22	西本町1	十日町市(博物館)	古墳時代中期 ~平安時代
49	考古資料	笛山遺跡出土品(国指定分を除く)	一括	平2.2.22	西本町1	十日町市(博物館)	縄文時代~中世
50	考古資料	伊達八幡館跡出土品(県指定分を除く)	一括	平11.3.16	西本町1	十日町市(博物館)	中世
51	考古資料	幅上遺跡出土品	一括	平12.3.21	西本町1	十日町市(博物館)	縄文時代
52	考古資料	干溝遺跡出土隆起線文土器	1点	平24.3.22	西本町1	十日町市(博物館)	縄文時代
53	歴史資料	松亭神社の俳句献額	1面	平1.12.14	犬伏	松亭神社	寛政10年
54	歴史資料	神宮寺觀音堂の俳句献額	1面	平14.3.22	四日町	神宮寺	明和元年
55	歴史資料	諏訪神社の俳句献額	1面	平14.3.22	諏訪町	諏訪神社	安永7年
56	歴史資料	縮間屋加賀屋蕪木家資料	一括	平22.3.18	西本町1	蕪木元昭	江戸後期
57	風俗慣習	婿投げ		平3.2.1	湯本・天水越	湯本・天水越地区	
58	風俗慣習	スミぬり		平3.2.1	湯本	湯本地区	
59	風俗慣習	新水のドウラクジンとハネッケーシ		平7.3.24	新水	新水地区	道楽神・羽根返し
60	風俗慣習	水沢の石場かち		平15.3.24	土市	水沢地区伝統芸能保存会	
61	民俗芸能	赤倉神楽		昭51.11.8	赤倉	赤倉神楽保存会	
62	民俗芸能	室野神楽		昭56.2.26	室野	室野神楽保存会	
63	民俗芸能	苧島神楽		昭56.2.26	苧島	苧島神楽保存会	
64	民俗芸能	田代神楽		昭57.4.1	田代	田代神楽保存会	
65	民俗芸能	中条大の坂		昭59.1.26	中条旭町	中条大の坂保存会	
66	民俗芸能	新保広大寺節		昭59.1.26	下条本町	新保広大寺節保存会	
67	民俗芸能	上川手歌舞伎		平11.7.21	上川手	上川手歌舞伎保存会	
68	民俗芸能	千手露香		平12.7.19	千手	千手露香保存会	
69	民俗芸能	野口神楽		平13.3.16	野口	野口伝統芸能保存会	
70	有形民俗	越後アンギン及び関係資料	一括	平11.3.16	西本町1	十日町市(博物館)	江戸~明治時代
71	史跡	犬伏城跡		昭45.8.7	犬伏	犬伏区	
72	史跡	蒲生城跡		昭45.8.7	蒲生	蒲生区	
73	史跡	室野城跡		昭45.8.7	室野	室野区	
74	史跡	四日町神宮寺境内地及び山林		昭47.11.28	四日町	神宮寺	江戸期
75	史跡	節黒城跡		昭50.2.26	新町新田	十日町市	室町期

76	史跡	大黒沢正平在銘梵字碑	1基	昭51.1.10	大黒沢	村山キノエ	南北朝期
77	史跡	鉢の石仏		昭53.1.28	鉢	鉢石仏保存会	江戸期 民間信仰地
78	史跡	笛山遺跡		平4.12.3	中条上町	岩田栄十郎 他	縄文～中世
79	史跡	羽川城跡		平10.3.25	麻烟	羽川城跡保存会	戦国期
80	名勝	積翠荘		昭55.4.11	吉田山谷	酒井うめ子	江戸期
81	名勝	岩見堂		平3.2.1	浦田	十日町市	
82	天然記念物	元町諏訪神社の親子スギ	2本	昭50.2.26	上野	元町諏訪神社	幹周 5.37m
83	天然記念物	海老の牛池		昭56.2.26	海老	海老区	
84	天然記念物	松代田沢十二社の大ケヤキ	1本	昭56.2.26	松代田沢	十二神社	幹周 7.03m
85	天然記念物	松代田沢十二社の大イチョウ	1本	昭56.2.26	松代田沢	十二神社	幹周 5.03m
86	天然記念物	長命寺の大イチョウ	1本	昭56.2.26	松代	長命寺	幹周 8.45m
87	天然記念物	寺田の大カエデ	1本	昭56.2.26	寺田	井上政身	幹周 2.66m
88	天然記念物	姿箭放神社の大ケヤキ	1本	昭63.7.20	姿	箭放神社	樹齢約560年 幹周5.43m
89	天然記念物	高麗神社社叢		平1.10.3	背戸	高麗神社	
90	天然記念物	ニッポンシロウリガイ化石	1塊	平1.12.14	松代	十日町市(まつだい郷土資料館)	
91	天然記念物	洞泉寺の大ケヤキ	1本	平1.12.14	室野	洞泉寺	幹周 6.90m
92	天然記念物	室野松原神社の大スギ	1本	平4.12.14	室野	室野松原神社	幹周 5.07m
93	天然記念物	小谷の大ケヤキ	1本	平3.2.1	小谷	小谷地区	幹周 6.50m
94	天然記念物	大荒戸の庚申夫婦スギ	2本	平3.2.1	大荒戸	大荒戸地区	幹周6.70m 5.10m
95	天然記念物	天水山麓のブナ原生林		平3.2.1	天水越	十日町市	50ha
96	天然記念物	安養寺松尾神社の大スギ	1本	平4.3.21	安養寺	安養寺地区	樹齢約500年 幹周7.99m
97	天然記念物	安養寺円通庵の三本スギ	3本	平4.3.21	安養寺	安養寺地区	樹齢約500年西側から 幹周7.44m 6.18m 3.89m
98	天然記念物	枯木又竜王社の三本スギ	3本	平6.3.23	枯木又	東西枯木又	西側から幹周4.43m 4.35m 6.00m
99	天然記念物	枯木又竜王池		平6.3.23	枯木又	東西枯木又	
100	天然記念物	渋海川河床の甌穴群		平9.3.11	松代田沢	新潟県	
101	天然記念物	入山のカスミザクラ	1本	平9.3.24	入山	山本丑松	1m上で分枝根回り5.75m
102	天然記念物	藤沢熊野神社の二本スギ	2本	平9.4.28	藤沢	藤沢熊野神社奉賛会	左幹周3.36m 右4.93m
103	天然記念物	田戸十二社の二本スギ	2本	平9.4.28	田戸	田戸区長	左幹周4.84m 右4.67m
104	天然記念物	白倉のカスミザクラ	1本	平10.4.27	小白倉	十日町市	幹周3.84m
105	天然記念物	程島 下の行者の大ケヤキ	1本	平22.3.18	程島	南雲敏晴	幹周9.23m
106	天然記念物	葎沢十二社の大スギ	1本	平22.3.18	葎沢	十二社	幹周7.12m
107	天然記念物	重地の大池	1本	平23.4.26	重地	十日町市	
108	天然記念物	太田島小牧社の大ケヤキ	1本	平24.3.22	太田島	十日町市	幹周6.75m

[十日町市指定地域文化財]

番号	種別	名称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備考
1	地域文化財	松代城跡		昭45.8.7	松代	松代区	
2	地域文化財	蓬平城跡		昭45.8.7	蓬平	蓬平区	
3	地域文化財	千手觀音堂仁王像	2躯	昭54.6.23	友重	長徳寺	江戸中期
4	地域文化財	鏡ヶ池		昭54.7.25	中尾	中尾地区	
5	地域文化財	標旗	1旒	昭55.4.11	六箇山谷	祇園寺	江戸初期
6	地域文化財	苧島の石地蔵	1軀	昭56.2.26	苧島	苧島区	昭和7年
7	地域文化財	洞泉寺の子育て地蔵	1軀	昭56.2.26	室野	洞泉寺	
8	地域文化財	道元禪師絵伝	双幅	昭56.2.26	千年	普門庵	嘉永7年
9	地域文化財	犬伏裸太鼓		昭56.2.26	犬伏	犬伏裸太鼓保存会	
10	地域文化財	木造不動明王立像	1軀	平1.12.14	室野	洞泉寺	戦国末左腕欠
11	地域文化財	神像(伝善財童子)	3軀	平1.12.14	桐山	十二神社	
12	地域文化財	积迦涅槃図	1幅	平4.12.14	犬伏	犬伏区	
13	地域文化財	木造狛犬(黒倉十二神社)	2軀1対	平3.2.1	黒倉	黒倉十二神社	桃山
14	地域文化財	西之前遺跡出土品	1括	平3.2.1	松之山	市松之山公民館	縄文後、古・中
15	地域文化財	木造十王像	10軀	平3.2.1	藤倉	正法寺	室町後～江戸初
16	地域文化財	木造狛犬(天水越松原神社)	2軀1対	平3.2.1	天水越	天水越松原神社	桃山
17	地域文化財	上杉塚跡(管領塚)		平3.2.1	天水越	十日町市	碑大正4年
18	地域文化財	苧島三十三觀音像	25軀1括	平7.12.5	苧島	苧島区	
19	地域文化財	木造十王像	6軀	平7.12.5	儀明	儀明区	
20	地域文化財	桔梗原新田用水路絵図	1通	平16.10.18	上山	中里土地改良区	
21	地域文化財	奴奈川村道路元標	1基	平4.12.14	室野	室野区	大正8年
22	地域文化財	枯木又のカスミザクラ	1本	平6.3.23	枯木又	東西枯木又	
23	地域文化財	石像道しるべ	3基	平7.12.5	菅刈・蒲生	菅刈区・蒲生区	江戸期
24	地域文化財	越後アンギン製作技術		平11.3.16	西本町1	越後アンギン伝承会	
25	地域文化財	勘平のお葉付イチョウ	1本	平4.12.14	勘平	高橋宏至	
26	地域文化財	寺田の白フジ	1本	平4.12.14	寺田	井上功	

2. 埋蔵文化財関係データ

	十日町地区	川西地区	中里地区	松代地区	松之山地区	計
平成17年4月現在	248	84	68	47	48	495
平成17年度新規登録		40		5	1	46
平成18年度新規登録	1		1			2
平成19年度新規登録			4			4
平成20年度新規登録		2	7			9
平成21年度新規登録			2			2
平成22年度新規登録	2		3			5
平成23年度新規登録	1		1			2
計	252	126	86	52	49	565

第12表 各地区の登録遺跡数の推移

	十日町地区	川西地区	中里地区	松代地区	松之山地区	計
遺物包含地・散布地	154	81	72	17	10	334
集落跡	27	0	7	0	0	34
城館跡	36	11	6	7	4	64
社寺跡	2	0	0	2	0	4
塚・経塚	32	12	1	25	34	104
板碑・石碑・石塔	1	22	0	1	1	25
計	252	126	86	52	49	565

第13表 登録遺跡の種別内訳

	十日町地区	川西地区	中里地区	松代地区	松之山地区	計
旧石器時代	4	1	7	0	0	12
縄文時代	147	76	70	16	9	318
弥生時代～古代	10	1	0	0	0	11
中世～近世	55	20	8	8	4	95
不明	36	28	1	28	36	129
計	252	126	86	52	49	565

※複合遺跡は主要時期のみをカウント

第14表 登録遺跡の時代別内訳

調査原因		本調査	確認	試掘	備考
道 路	国道・県道・市道	14	2	18	貝野久保遺跡、真萩田遺跡(1次、2次)、上屋敷遺跡(1次、2次)、貝野大道下遺跡、貝野沖遺跡、溝遺跡、尾崎館跡、尾崎館跡隣接地、貝野沢田遺跡(1次、2次)、干溝東遺跡(1次、2次)、橋詰居村遺跡、小原遺跡
	広域農道・林道ほか	0	2	4	貝野天池遺跡、坪野館跡
鉄 道		0	0	0	
土地造成	県営圃場整備	4	0	19	梶花遺跡、樽沢開田遺跡、清津宮峯遺跡、白羽毛遺跡
	区画整理	0	0	2	
	土地改良	2	1	2	久保寺遺跡、下原田A遺跡、下原田B遺跡
	国営パイロット	0	0	0	
	ゴルフ場	0	0	0	
	リゾート開発	0	0	0	
	公園整備	0	0	0	
	土砂採取等	0	3	17	狐窪遺跡、田沢中道遺跡(1次、2次)
	その他	2	2	2	上ノ山開墾地遺跡(確認、1次、2次)、上ノ山遺跡
建 築	学校等	0	0	1	
	体育施設等	0	0	0	
	公共施設等	0	2	0	会所前A遺跡(2次)
	住宅・店舗・工場等	0	3	6	滝の坂遺跡、道下南遺跡、坪野館跡
	耐震性貯水槽	0	0	4	
そ の 他	携帯電話基地局	0	0	12	
鉄塔建設		0	0	0	
学術調査		0	0	0	
合 計		22	15	87	

第15表 発掘調査の原因(平成17年度以降)

調査年度	発掘	試掘	遺跡名
昭和34(1959)	1		小坂遺跡(1次)
昭和35(1960)	1		小坂遺跡(2次)
昭和45(1970)	1		牛ヶ首遺跡
昭和48(1973)	2		城之古遺跡(1次、県教委)、川治百塚第6号塚(県教委)
昭和49(1974)	2	9	馬場上遺跡(1・2次)
昭和50(1975)	3	20	馬場上遺跡(3・4次)、北原八幡遺跡(県教委)
昭和51(1976)	1		つつじ原B遺跡(1次)
昭和55(1980)	3		坪野館跡、馬場上遺跡(5次)、笛山遺跡(1次)
昭和56(1981)	2		池之端遺跡、笛山遺跡(2次)
昭和57(1982)	7		笛山遺跡(3~5次)、笛山塚群、カタガリ遺跡、カタガリ城跡、小坂遺跡(3次)
昭和58(1983)	4	2	赤羽根遺跡(1・2次)、馬場館跡(1次)、馬場神社遺跡
昭和59(1984)	6	4	馬場上遺跡(6次)、江崎遺跡、笛山遺跡(6次)、馬場館跡(2次)、赤羽根遺跡(3次)、柳木田遺跡(1次)
昭和60(1985)	6	3	柳木田遺跡(2次)、川治上原A遺跡、川治上原B遺跡、笛山遺跡(7次)、水穴遺跡(1次)、南谷内館跡(1次)
昭和61(1986)	2	2	栗ノ木田遺跡、南谷内館跡(2次)
昭和62(1987)	3	5	伊達八幡館跡、寺大門北遺跡、寺大門南遺跡
昭和63(1988)	4	10	河原田遺跡(1次)、社畠遺跡、猪原遺跡、朴ノ木清水B遺跡
平成元(1989)	8	17	朴ノ木清水A遺跡、つつじ原A遺跡、つつじ原B遺跡(2次)、大清水遺跡、中段遺跡、天池A遺跡、天池B遺跡、野首遺跡(1次)
平成2(1990)	4	11	鎧坂二ツ塚、狐塚遺跡、水沢館跡(1次)
平成3(1991)	6	20	横割遺跡、大新田遺跡、牛塚遺跡、椿池遺跡、河原田遺跡(2次)、牧脇遺跡
平成4(1992)	7	12	道下遺跡、宮ノ上A遺跡、宮ノ上B遺跡、水穴遺跡(2次)、延命寺遺跡、大井久保遺跡、ほんのう遺跡(1次)
平成5(1993)	7	9	高島南原A遺跡、高島南原B遺跡、カウカ平A遺跡、カウカ平B遺跡、ほんのう遺跡(2次)、珠川A遺跡(1次)、珠川B遺跡
平成6(1994)	6	10	珠川A遺跡(2次)、大沢遺跡、上塚原B遺跡、中道遺跡、思川遺跡、城之古遺跡(2次)
平成7(1995)	8	7	城之古遺跡(3次)、上梨子A遺跡、上梨子B遺跡、ほんのう南遺跡、上組A遺跡、上組B遺跡、戸屋遺跡(1次)、野首遺跡(2次)
平成8(1996)	12	9	野首遺跡(3次)、戸屋遺跡(2次)、岡山遺跡、アミダ屋敷A遺跡、谷内田遺跡、島A遺跡、島B遺跡、白井田A遺跡、白井田B遺跡、なんぜん萱場遺跡(1次)、やせ舟遺跡(1・2次)
平成9(1997)	10	2	やせ舟遺跡(3次)、春山遺跡、寿久保遺跡、十二沖A遺跡、十二沖B遺跡、中曾根A遺跡、原田A遺跡、原田B遺跡、つつじ原C遺跡、なんぜん萱場遺跡(2次)
平成10(1998)	3	11	谷地A遺跡(1次)、中新田B遺跡(1次)、廿日城東遺跡(1次)
平成11(1999)	6	4	谷地A遺跡(2次)、中新田A遺跡、中新田B遺跡(2次)、廿日城東遺跡(2次)、下梨子遺跡(1次)、泥木遺跡
平成12(2000)	5	6	道端A遺跡、道端B遺跡、道下南遺跡、馬場上遺跡(7次)、上塚原A遺跡
平成13(2001)	3	4	孤城跡(1次)、水沢館跡(2次)、桃山遺跡
平成14(2002)	4	10	水沢館跡(3次)、孤城跡(2次)、宮栗北遺跡、馬場上遺跡(8次)
平成15(2003)	4	3	江道A遺跡、大道下遺跡、孤城跡(3次)、中林I遺跡
平成16(2004)	3	5	江道B遺跡、江道C遺跡、下梨子遺跡(2次)
平成17(2005)	4	10	会所前A遺跡(2次)、上ノ山開墾地遺跡(1次)、上ノ山遺跡
平成18(2006)	2	8	上ノ山開墾地遺跡(2次)、尾崎館跡
平成19(2007)	4	14	梶花遺跡、貝野久保遺跡、真萩田遺跡
平成20(2008)	6	16	貝野大道下遺跡、真萩田遺跡(2次)、上屋敷遺跡
平成21(2009)	9	14	樽沢開田遺跡、貝野沖遺跡、上屋敷遺跡(2次)、溝遺跡、久保寺遺跡、道下南遺跡、田沢中道遺跡、坪野館跡、田沢遺跡(2次)
平成22(2010)	5	17	清津宮峯遺跡、貝野沢田遺跡、干溝東遺跡、橋詰居村遺跡、田沢遺跡(3次)
平成23(2011)	7	8	干溝東遺跡、小原遺跡、白羽毛遺跡、下原田A遺跡、下原田B遺跡、貝野沢田遺跡、田沢遺跡(4次)
小計	181	282	

調査年度	発掘	試掘	遺跡名
昭和34(1959)	1		泉竜寺遺跡
昭和40(1965)	1		中林遺跡
昭和43(1968)	1		田沢遺跡(1次)
昭和48(1973)	1		森上遺跡
昭和54(1979)	1		壬遺跡(1次)
昭和55(1980)	1		壬遺跡(2次)
昭和56(1981)	1		壬遺跡(3次)
昭和57(1982)	1		壬遺跡(4次)
昭和60(1985)	1	1	鷹之巣遺跡
昭和61(1986)	1		壬遺跡(5次)
昭和63(1988)	1		布場遺跡(1次)
平成元(1989)	1		通り山遺跡
平成2(1990)	1	2	一里塚遺跡
平成3(1991)	2	1	壬遺跡(6次)、干溝遺跡
平成4(1992)	2	1	小丸山遺跡、おざか清水遺跡
平成5(1993)	1		御屋敷遺跡
平成8(1996)	2		桂遺跡
平成9(1997)	7		
平成10(1998)	2		
平成11(1999)	1	2	久保寺南遺跡
平成12(2000)	1	4	家ノ上遺跡
平成13(2001)	4	7	貝野遺跡、中島遺跡(1次)、内後遺跡(1次)、布場遺跡(2次)
平成14(2002)	8	5	内後遺跡(2次)、中島遺跡(2次)、中田B遺跡、中田D遺跡、堂ノ上遺跡(1次)、宮中家ノ中遺跡、原屋敷遺跡、会所前遺跡
平成15(2003)	3	6	土橋遺跡、内後遺跡(3次)、堂ノ上遺跡(2次)
平成16(2004)	2	4	会所前A遺跡(1次)、干溝南遺跡
小計	37	44	

調査年度	発掘	試掘	遺跡名
平成9(1997)	1		向原II遺跡(確認)
平成10(1998)	1		向原II遺跡(1次)
平成11(1999)	1		向原II遺跡(2次)
小計	3		

第16表 発掘調査一覧（上段：旧十日町市・新十日町市、中段：旧中里村、下段：旧松代町）

年 度	試掘調査	確認調査	本 調 査	調査面積	事 業 費	調 査 遺 跡
平成10年度	10件	1 件		約900m ²	2,000千円	谷地A遺跡ほか
平成11年度	3 件	1 件		約350m ²	1,000千円	下梨子遺跡ほか
平成12年度	4 件	2 件		約680m ²	1,200千円	馬場上遺跡、上塙原A遺跡ほか
平成13年度	2 件	2 件		約620m ²	4,000千円	狐城跡、水沢館跡ほか
平成14年度	7 件	3 件	1 件	約1,800m ²	6,000千円	宮栗北遺跡、狐城跡、馬場上遺跡、水沢館跡ほか
平成15年度	3 件	3 件		約1,510m ²	4,200千円	大道下遺跡、中林I遺跡、狐城跡ほか
平成16年度	3 件	5 件		237 m ²	3,800千円	宮栗北遺跡隣接地、下梨子遺跡、上ノ山開墾地遺跡隣接地ほか
平成17年度	10件	4 件		1,156 m ²	5,266千円	会所前A遺跡、上ノ山開墾地遺跡、上ノ山遺跡、尾崎館跡隣接地ほか
平成18年度	8 件		1 件	555 m ²	7,000千円	尾崎館跡、梶花遺跡、真萩田遺跡、貝野久保遺跡ほか
平成19年度	13件	1 件		約1,348m ²	4,320千円	田中山の根遺跡、上屋敷遺跡、貝野大道下遺跡、狐窪遺跡ほか
平成20年度	16件	3 件		約1,858m ²	3,800千円	田沢中道遺跡、田沢谷上遺跡、滝の坂遺跡、貝野天池遺跡、坪野館跡、貝野沖遺跡、樽沢開田遺跡ほか
平成21年度	15件	4 件		約740m ²	3,200千円	溝遺跡、清津宮峯遺跡、久保寺遺跡、道下南遺跡、田沢中道、坪野館跡ほか
平成22年度	17件	1 件		732 m ²	3,000千円	橋詰居村遺跡、干溝東遺跡、貝野沢田遺跡、下原田A遺跡、下原田B遺跡ほか
平成23年度	10件			359 m ²	1,200千円	小原遺跡ほか
(平均)	8.6件	2.1件	0.1件	約917.5m ²	3,570.4千円	

第17表 文化財保存事業費補助金関係事業の推移（平成10～23年度）※平成16年度以前は旧十日町市

3. 文化財関係者名簿

氏 名	担 当 分 野	備 考
武田 正史	文化財一般、記念物（史跡）、有形文化財（歴史資料）	H.12.6.12～
庭野 政義	有形文化財（絵画、工芸品）	H.12.6.12～
宮沢 孝美	有形文化財（建造物）	H.14.6.12～
丸山 克巳	記念物（史跡）、有形文化財（書跡典籍、古文書、歴史資料）	H.14.6.12～
井上 信夫	記念物（動物、植物）	H.14.6.12～
川村 知行	仏教美術	H.17.4.1～
星名 寅	文化財一般・川西	H.17.4.1～
鈴木榮太郎	文化財一般・古文書・松代	H.17.4.1～
佐藤 喜一	文化財一般・松之山	H.17.4.1～
村山 詔平	文化財一般・中里	H.19.4.1～

第18表 十日町市文化財保護審議会委員名簿

氏 名	担 当 地 域	備 考
丸山 克巳	十日町市（旧十日町市、旧中里村）、津南町	H.17.4.1～H.19.3.31
角山 誠一	十日町市（旧十日町市、旧中里村）、津南町	H.19.4.1～H.23.3.31
清水 迪男	十日町市（旧十日町市、旧中里村）、津南町	H.23.4.1～
佐藤 定行	十日町市（旧松代町、旧松之山町、旧川西町）、柏崎市（旧高柳町）	H.17.4.1～H.22.3.31
柳 裕	十日町市（旧松代町、旧松之山町、旧川西町）、柏崎市（旧高柳町）	H.22.4.1～

第19表 新潟県文化財保護指導委員名簿（平成17年度以降）

■文化財課・博物館職員（平成23年度）

文化財課長	平野 勝	補助員	上野 洋子
副参事	水落 辰美	補助員	角山 誠一
副参事（文化財係長）	石原 正敏	補助員	富澤 孝之
主査	矢口ヨネ子	補助員	斎藤 浩俊
主査（文化財主事）	菅沼 亘	補助員	阿部美記子
主査	太田 喜重	補助員	片島 智美
主任（文化財主事）	笠井 洋祐	補助員	涌井美保子
主事（文化財主事）	阿部 敬	事務支援員	鈴木 えみ
嘱託（調査研究員）	宮内 信雄	臨時職員	田村 香織

十日町市教育委員会 文化財課年報 14

発行日／平成24年(2012) 3月31日

編集・発行／十日町市教育委員会
文化財課

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1丁目
十日町市博物館 内
十日町市教育委員会文化財課
TEL (025) 757-5531
FAX (025) 757-6998

印刷／株 滝沢印刷